

「学ぶ力」	
実態	課題
<p style="text-align: center;">これまでの 成果</p> <p>◇昨年度一年間、課題探究的な学習を意識し、授業改善の研修会を教職員で繰返し、授業に生かしてきたことで、生徒が自ら身に付けた力を認識し、次の学習への意欲喚起につながった。生徒アンケートや保護者アンケートでも「意欲的に学習に取り組む生徒」の項目が上がった。</p> <p>◇1人1台端末を用いて課題探究的な学習場面をつくり、生徒に表現活動を体験させたことで、札幌市の共通指標の「疑問や課題を解決するために、端末を使って自分なりに調べようとしている」生徒の割合が増加傾向にある。</p>	<p style="text-align: center;">課題</p> <p>◇授業には意欲的に取り組む一方で、札幌市の共通指標では、「自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合が引き続き低い。また、自ら課題を設定し、見通しをもって学習を進めるための手立ての項目も、生徒の学校評価アンケートにおいて引き続き低いことから、積極的な支援が必要である。</p> <p>◇札幌市の共通指標においても、「端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている」生徒の割合が他項目に比べ低い傾向が続いていることから、積極的に人と学び合おうとする力を付けることが必要である。</p>
<p style="text-align: center;">「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市の共通指標の「人の役に立ててうれしいと感じることがある」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な回答が多い傾向にあり、他者を尊重しながら行動できる生徒が多い実態がある。一方で「自分が必要とされていると感じる」項目の回答はここ数年数値が上がらない傾向にあり、自己肯定感を高めるための場の設定や、価値付けが必要である。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自らの学習活動を再構築する力

取組	AARサイクルの視点で捉え直した課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく自治的な活動の充実
<p>◇研究副主題「課題や目標を明確にし、身に付けた力を実感できる授業の実践」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> →生徒が自ら学び進めたい意欲を高める授業構築 →生徒が見通しをもって学習を進める導入の工夫 →生徒が自分の思考を再構築できる場面の設定 →生徒の自己肯定感の向上につながる支援の改善 →単元・章の前後を比較した自己の振り返り 		<p>◇よりよい学校生活を送るための生徒会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> →学校生活の様々な課題を議題にした生徒総会議案審議の実施 →計画と報告を発表する生徒総会の実施 <p>◇自分たちの学校の良さを発表する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →中学校のアピールポイントを含んだ発表資料の作成 →パートナー校での発表、反省

〈本プログラムの実行に向けて〉

